

競 技 注 意 事 項

1. 本競技会は 2026 年日本陸上競技連盟規則と本大会申し合わせ事項によって行う。

(1) 競技用靴・靴底の厚さ(TR5.2) ※2024 年 11 月 1 日から

種 目	ソールの 最大厚さ	その他の要件/注意
トラック種目 ハードル種目	20 mm スパイク シューズ また は ノン・スパイ クシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に 応じて適用する。
フィールド種目	20 mm スパイク シューズ また は ノン・スパイ クシューズ	全跳躍種目で、本規程 10.3 および 10.4 に記載のとおり、靴の前の 部分の中心 点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底 の厚さを超え てはならない(前足の中心 は、靴の内部の長さの 75%にある靴の 中心点。 踵の中心は、靴の内部の長さの 12%にある靴の中心 点)。

(2) 招集所及び競技エリアに携帯電話・スマートフォン・タブレット等の通信機器や録画再生機器等を持ち込んではいけない。

2. 招 集 (コ ー ル) に つ い て

(1) 招集時間 (競技開始時刻前)の下記時刻で行う。この時間帯に招集を完了できなかった場合は出場できない。)

	トラック	跳 躍	投てき
開始時刻	3 0 分前	5 0 分前	6 0 分前
完了時刻	2 0 分前	4 0 分前	5 0 分前

(2) 競技者は招集開始時刻までに招集所内で待機し、競技服装 (アスリートビブス・トラック競技では腰ナンバーカードを付けている状態) になり、競技で使用するシューズのチェックを受ける。

整列点呼後、招集所から各競技場所へは、まとまって移動する。

(3) 招集に遅れた競技者は欠場したものとして処理する。

(4) 欠場する場合は、欠場届を招集開始時刻までに招集所の競技者係へ必ず提出すること。

(用紙はHPにあるものをダウンロードして利用する。)

(5) 招集の代理は認めない。ただし、招集時間帯に競技が行われる可能性がある場合には、**第 1 種目の招集完了時刻までに「多種目同時出場届」**を招集所へ提出すること。この場合、代理をたてる必要はない。(用紙はHPにあるものをダウンロードして利用する。) なお、第 1 種目は招集を受けなければならない、届を出した種目を含め当該競技で使用する全てのシューズについてチェックを受けること。また、ラウンド進出により招集時間帯に競技が行われる可能性が発生した場合には、すみやかに多種目同時出場届を招集所へ提出すること。

(6) リレー競技について

①オーダー用紙は、**第 1 組の招集完了時刻の 1 時間前までに**招集所に提出すること。

(用紙はHPにあるものをダウンロードして利用する。)

②招集完了時刻前であっても、一度提出したオーダー用紙の変更・差し替えは認められない。

③一度オーダー用紙を提出した後の変更は、招集完了時刻までに総務に申し出たうえで、大会本部が任命した医務員の判断がない限り認められない。医務員の判断による変更は、出場選手の変更のみ認められ、走順の変更は認められない。

④オーダーメンバー全員が招集開始時刻には招集所内に待機し、点呼を受けること。なお、多種目に出場していて、多種目同時出場届の提出が完了している場合は、代理の必要はない。

(7) 招集所から現地 (スタートライン・跳躍ピット・投擲ピット) に行く場合、競技者係の指示に従うこと。

3. アスリートビブスについて

必ず胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技は胸部または背部だけでよい。

トラック種目では腰ナンバーカードをパンツの右側やや後方に付けること。なお、腰ナンバーカードは主催者で準備する。

4. 運営方法について

(1) トラック種目はすべてタイム決勝とする。

- | | | | | |
|------------|-----|----|-------------------------------|------------|
| (2) バーの上げ方 | 走高跳 | 男子 | 1.55-1.60-1.65-1.70-1.75-1.80 | 以降 3 cm ずつ |
| | | 女子 | 1.25-1.30-1.35-1.40-1.45-1.50 | 以降 3 cm ずつ |
| | 棒高跳 | 男子 | 2.62-2.82-3.02-3.22-3.42-3.62 | 以降 10cm ずつ |
| | | 女子 | 2.02 | 以降 10cm ずつ |

※走高跳・棒高跳ともに練習の高さは当日現地で決定する。

- (3) 高き競技を除くフィールド競技においては、トップ8を行う。
- (4) 高き競技を除くフィールド競技の試技はすべて2本とする。TOP8後の試技も2本とする。
- (5) 走幅跳におけるカットラインは当日に跳躍審判長と主任で決定する。
やり投げについては男子35m、女子20mをカットラインとする。
- (6) 投てき競技はすべてフィールド内で行う。いずれの種目の投てき練習も競技場所に入ってから審判員の指示に従って行うこと。これ以外の投てき練習は禁止する。
- (7) 各自が持参した投てき用やりは検定を受けて使用する。（競技開始90分前から60分前までに器具庫前に持参すること。）
- (8) フィールド競技の試技制限時間

单独種目

残っている競技者数	走高跳	走幅跳
4人以上※	30秒	30秒
2～3人	1分	30秒
1人	3分	—
連続試技※※	2分	1分30秒

※4人以上または各競技者の最初の競技は1分とする。

※※残っている競技者数が2名以上の時に適用し、走高跳では高さが変わった場合にも適用する。

6. 表彰 各種目3位まで賞状がある。リレーの賞状は1校5枚とする。

7. 補助員 1 日目 15:10 2 日目は各部署で（室内練習場）

常任委員校で割り振る。清掃については、補助員割り当てを見て、確認しておくこと。

8. 競技場への入場について

入場は学校関係者のみとし、各校の顧問は入場者の把握を行ってください。

9. その他

(1) 競技会開始前及び競技中のトラックでの練習については、次のレーン区分を守り、周囲の動きに十分注意して行うこと。

ただし競技会準備を優先し、マーシャルの指示に従い、練習は競技開始30分前までとする。

【1日目 8月29日】※跳躍練習（幅・高）は、各ピットの現地競技役員の指示で行ってもよい。

周回練習：1・2レーン ＊ジョグはレーン外

直線での短距離練習：ホームストレート5～9レーン、

コーナーからのスプリント練習は水濠付近からの3・4レーン

300mHの練習：女子は4・5・6レーン 男子は7・8・9レーン ※ハードル練習は2台目まで

【2日目 8月30日】※跳躍練習（幅・高・棒高）は、各ピットの現地競技役員の指示で行ってもよい。

中距離用周回練習：1・2・3レーン ＊ジョグはレーン外

短距離練習はホームストレート4～9レーン

バトン練習：第1コーナーからバックストレート女子4・5レーン 男子7～9レーン

★ 6レーンは回避レーンとする

(練習後に必ず、マーカー (テープ) をはがすこと。＊ボタン練習は2日目のみ)

練習では余裕をもって長めに走り、戻りには十分に安全確認をすること。

- (2) 競技者としてのマナーを守る。本部前は生徒の通行は原則禁止。ゴール後は本部前を通らないこと。
また、トラック周囲を通行することは競技の妨げになるので、スタンド通路を通行すること。
- (3) 競技エリア内にビデオ装置、携帯電話、スマートフォン、タブレット等の電子通信機器等を持ち込むことはできない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。フィールド競技に出場している競技者が、それ以前の試技の映像をコーチ席以外の場所からの提示のより見ることは認めない。メインスタンド前ピットで行われる走幅跳・三段跳では、録画再生機器等をメインスタンドの指定されたエリアから大会本部が用意した吊り下げ紐付き袋を使用した場合のみ、それ以外の場所での跳躍競技および投

擲競技では、コーチ席前の指定されたエリアの中で、録画映像を提供する者から受け渡しが可能であれば、競技者は撮影した人とコミュニケーションを取りながら録画再生機器等を手にしてもよい。ただし通信通話機器機能の使用は競技規則により禁止である。

- (4) 危険防止・安全確保のため、折りたたみいす、大型のクーラーボックスなどの競技に支障をきたすものを、競技エリア内に持ち込まないこと。
- (5) フィールド芝生内への立ち入りは競技役員、補助員のみとする。
- (6) メインスタンドには部旗等を掲げない。テントはメインスタンドおよびバックスタンド中段通路より上で、屋根のない所に設置する。
- (7) 競技エリア内における日傘の使用に関しては十分に配慮すること。
- (8) 貴重品・私物の管理は各校で責任を持つこと。盗難には十分に注意すること。
- (9) ケガ人が出た場合、本部で応急手当は行いますが、その後は各校顧問で処置してください。
- (10) ゴミはすべて持ち帰ること。
- (11) 自転車は決められた場所に駐輪すること。
- (12) 本大会の結果については掲示は行わない。
大阪高体連陸上競技専門部 webpage に随時アップデートするため、各自確認すること。
- (13) 8/30(日)の開門抽選は29日(土)15:30~16:45の間に1階エントランスで行う。